

地震からくらしを守る



岩城四

六月二十日の五、六時間目に防災についての授業をしました。その日は、弓削の役場のそうむ課のきぎ管理室から三人の方が来てくださいました。

まず始めに、防災倉庫を二か所見学しました。一か所目は学校のうらにある防災倉庫です。学校のうらに倉庫があることは知っていましたが、それが防災倉庫だとは知りませんでした。その中には、非常食が置いてありました。米、パン、おでん、水などがあり、百人の人が一日すごせる量でした。水は、五年間保存でき、五年ごとに新しい水と入れかえるそうです。倉庫の中には、かん気せんがついていて、中と外の空気を入れかえて、食べ物を管理していました。

次に、学校の近くの高台にあるほけんセンターの防災倉庫に行きました。この倉庫には非常食はなく、すべて日用品でした。わたしは、この防災倉庫には、日用品だけしか入っていないなかったので、食料品がなくてはいけません。うぶなのかな、と思いました。

この倉庫の中には、発電機、トイレ、段ボールベッド、電気などがありました。

わたしたちは、段ボールベッドをつくらせてもらいました。女子四人でかん単にすぐにつくれました。この段ボールベッドはとてもがんばりようで、女子四人が乗ってもくずれることがありませんでした。なんと、約七百キログラムの重さにもたえられるそうです。これは、ひなん所での生活が長くなると、お年寄りや足の不自由な人は起き上がるのが大変になるので使われるそうです。わたしも寝転

がった後に起き上がって見ましたが、とても楽に起き上がることができました。

六時間目には、教室で防災についてのお話を聞きました。わたしが特におどろいたことが二つあります。

一つ目は、きん急ひなん所とひなん所のちがいです。きん急ひなん所は、災害の時、いったんひなんする場所で、岩城には三十七か所あります。ひなん場所は、家でくらすことができなくなつた人がくらす場所で、岩城には九か所あるそうです。

二つ目は、「防災の日」についてです。「防災の日」が九月一日だということ、その日は、昔東京の辺りで大きな地震があり、多くの人がぎせいになつたということからつくられた日ということを知りました。

防災についていろいろな学習ができたとてもきちような時間でした。たんにんの先生が、「次の授業では、自分の命を守るために自分ができることを考えたり、参観日に家族と話し合ったりするよ。」

と言っていました。次の授業では、家族といっしょに地震のことについてしんけんを考えたいです。

※ 岩城島の防災について学んだことを具体的に書くことができました。経験して感じた気もちを入れることで説く力のある文章になっています。